

数学のワーク 活用方法

活用方法① 家庭学習で

授業で習った内容をその日のうちに復習することで学習内容の定着を図る！

「基本のたしかめ」で数学の用語やポイントを確認する。

「基本のたしかめ」を授業の最後に行い、宿題への意識付けをする。

「練習問題」で力を付ける。

計算をしっかりと書き込めるスペースを確保し、計算過程を大切にす。

チェック欄を活用し、生徒の理解度を確認する。

【活用例】

○取り組み表を学校独自で作成し、授業との関連を図る工夫をし、毎日の家庭学習に位置付くように指導している。

3年生 ワークの学習計画表 【平方根】

3年()組()番()					
NO	授業	単元	ワーク	実施日	検印
1	2乗すると2になる数	48・49	基本①	✓	1回目
2	平方根とその表し方	50・51	練習①、②、③	✓	
3	平方根の値とその大小	52・53	基本②・練習④、⑤、⑥	✓	

○1単元で数回提出し、学習内容の理解度をチェックし、問題の解き方がわからない生徒に対して支援をする。

「これと同じことすんだら!! ok?」

活用方法② 授業・定期テストで

授業や定期テストでワークを活用することで、ワークの内容の定着度が確認できる！

【活用例】

- ① 授業前に、前回の授業までの学習を復習するために「基本のたしかめ」を活用。
- ② 授業の素材として、ワーク中の問題を活用。
- ③ 授業の終わりに、その時間の理解の確かめとして活用。
- ④ 教科書の計算練習や章末問題の時間に、追加問題として活用。
- ⑤ 定期テスト・単元テストに出題することを予告して出題することで、ワーク活用の意識を高めることもできる。

活用方法③ 評価として

ワークの提出で「関心・意欲・態度」、ワークの解き方の記述で「数学的な見方・考え方」を！

【活用例】

○ワークの提出状況や間違えた問題に再度取り組んでいることを「関心・意欲・態度」の評価の一部に取り入れる。

間違えた問題に再度取り組んでいる。

○ワークの問題を解く際の途中計算や解き方の記述から「数学的な・考え方」の評価に反映している。

1 次の図形の対角線の長さを求めなさい。

(1) 1辺が5cmの正方形

解き方の記述をしっかりと書いている。

対角線の長さを x とする
 $5^2 + 5^2 = x^2$
 $25 + 25 = x^2$
 $50 = x^2$
 $x = 5\sqrt{2}$